

外国語保持教室で日本航空を見学  
 (海外子女教育振興財団)

海外子女教育振興財団の外国語保持教室は三月二十五日、小学五年生以上の受講生有志を対象に、日本航空株式会社関西空港支店(大阪府泉南郡)で特別見学会を実施した。おもに英語を使って行われ、当地近郊の受講生を中心に二十人が参加した。

本財団の外国語保持教室は、語学力の質を高めるために不可欠な「読み・書き」の力と、会話によるコミュニケーション力の強化を目的として、ふだんは土曜日(一部は平日の夕方)に開講している。対象は小学二年生から高校三年生までの帰国生で、首都圏・中部・関西のほかWEBサテライト教室を加えて約一四〇〇人の受講生が英語やフランス語(首都圏のみ)の保持に励んでいる。

今回の特別見学会は「グローバルな企業を訪問し、英語で説明を受けたらすることで学習の意欲を高め、今後の進路を考えるきっかけ

にしてもらいたい」という趣旨のもと、日本航空の協力を得て関西国際空港にて実現した。

プログラムは十三時から十四時半まで。参加者はまず日本航空の関西空港支店の会議室で、同社の旅客部門や航務部門等の業務の概要をビデオで紹介してもらい、続いて実際の業務をそれぞれ見学した。旅客部門ではおもにカウンターでのチェックイン業務を中心に空港での乗客への応対について説明を受け、航務部門ではバックオフィスにて事務スタッフとパイロットがやり取りするカタワラで、おもに飛行機の運航管理に関する説明を受けた。その後、ふたたび会議室に移動し、クイズ形式で日本航空や航空業界のことについて学ぶ時間が設けられた。

ふだんは関係者しか入ることのできないエリアでの見学に、参加者たちは緊張しながらも積極的に質問したり、出されたクイズに歓声を挙げながら熱心に答えたりする姿が見られた。

最後に、アメリカやアジア諸国で子育てをした経験を持つ関西空港支店長の岡裕次氏から、「海外で培ったものは、皆さんのたいへん貴重な経験になると思う。大人

になってからもその経験を生かし、海外で活躍できるようにがんばってほしい」というメッセージが笑顔で送られた。

終了後、参加者からは「世界に股にかけて活躍されているかたがたに会えてうれしかった。自分もこんなふうになりたいなと思っただ」、「職場全体が緊張感を持ちながらも楽しそうな雰囲気で、ワクワクした」、「将来、航空業界で働きたいと思っていたが、その気持ちのままますます強くなった。岡支店長さんのことばにもすごく励まされた。この先、英語をもっとがんばって夢をかなえたい」などの感想が寄せられた。

詳細は外国語保持教室のホームページを[ご覧ください](https://www.w.joes.or.jp/kojin/hoji)。

<https://www.w.joes.or.jp/kojin/hoji>



空港業務の概要をビデオで学ぶ参加者たち

第六十九回グローバル化  
 社会の教育研究会開催

四月十六日、六十九回目となる「グローバル化社会の教育研究会」が聖学院中学高等学校(東京都北区)で開かれ、教育関係者を中心に約二十人の参加があった。「われらが科学技術立国の行方……インドとの高度人材交流を通して、日本人材、社会のグローバル化を考える」をテーマに国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)・国際連携アドバイザーの西川裕治氏が話題提供を行い、来場者と活発な意見交換をした。

西川氏は大手総合商社で海外営業を長く経験したほか、日本貿易会や日本在外企業協会の広報部長兼機関誌編集長、さらに昨年三月までJSTインド代表としてニューデリーに駐在した経歴を持つ。

まず司会者から、「近年、海外子女が増えている一方で日本人学校の在籍者数は減少傾向にある。海外駐在員家庭の英語教育志向は強まっているのではないか」との前置きがあった。それを受けて西川氏が壇上に立ち、ICT分野等

で発展著しいインドと、経済大国の座を脅かされつつある日本との関係について解説したほか、両国間の交流を活発化するために日本の学校や大学ができること等に関して提言をした。

西川氏によると、インドにはインド工科大学など優秀な人材を育てる大学があり、ゲーグル、マイクロソフトなど世界のトップ企業でもインド人は大活躍している。日本の若者が、多様性に富む優秀な世界の若者と交流し、刺激し合い切磋琢磨することは、今後の日本の発展のために必須だが、欧米と比べて日本の学校・大学はインドとのつながりが弱いのは残念なことだと話した。

一方、「インドにはアニメ、漫画等の影響で日本に関心を持つ若者は珍しくない。日本側の受け入れ体制さえ整えばインドからの留学生は増える。日本は国を挙げて海外からの留学生を増やそうとしているが、そのためには海外の若者が使いやすい入試制度、奨学金制度や英語で学位を取得できるコース等を整備・拡充する必要がある」と説いた。そして具体案の一つとして、アジア等からの優秀な若手人材受け入れの一翼を担う交

流事業「さくらサイエンスプラン」についても触れた。

この事業は産学官の連携により、「日本とアジア等の国・地域との友好関係を強化する」、「日本の教育・研究機関のグローバル化を促進する」、「科学技術イノベーションに貢献し得る海外からの優秀な人材の育成と継続的な交流に寄与する」ことを目的に、海外の優秀な若手人材を日本に招へいし、日本の科学技術を体験し交流してもらう事業である。二〇一四年にスタートし、五年間で二万六千人以上の若者が訪日しているという。インドの二十歳前後の層の人口は日本の約二十倍で、その国力が秘める可能性は非常に大きい。最近では、海外研修旅行先にインドを選ぶ日本の高校も出てきている。今後ますます日本とインドの若者交流が盛んになり、将来の両国の発展につながってほしいと締めくくった。

会場からは「我が校ではインドへの研修旅行を予定しているが、安全や衛生面で保護者の不安が大きい。どう説明したらよいか」、「さくらサイエンスプランに申し込むには、具体的にどのようなすればよいのか、応募条件はあるの

か」等の質問が散会まで絶え間なく続いた。

## お知らせ

日本学校等学校採用教員募集説明会のお知らせ

(海外子女教育振興財団)

2020年4月から日本学校等に赴任する学校採用教員(本財団による支援制度を通じて日本から招聘する教員)を募集するにあたり、全国で説明会を開催している。詳細はウェブサイトを参照のこと。

なお、本財団では学校採用教員の赴任中や帰国後、日本国内での教員採用や就職に関する幅広い情報提供等の支援も行っている。

URL <https://www.joes.or.jp/zaigai/teacher>



帰国後の「教員採用ガイダンス」の様子

## 第23回図書館を使った調べる学習コンクール募集要項

(公益財団法人図書館振興財団)

目的

図書館の利用促進と調べる学習の普及

募集内容

①調べる学習部門

小学生の部(低学年・中学年・高学年)、中学生の部、高校生の部、大人の部、子どもと大人の部。公共図書館や学校図書館を使って調べ、まとめた作品。身近な疑問や不思議に思うこと、興味があることなど、調べるテーマは自由。

②調べる学習指導・支援部門

図書館を使った調べる学習の指導・支援の実践をまとめた作品

留意点

- ・応募者自身のオリジナルの作品に限る
- ・他のコンクールとの二重応募は不可

・応募は、日本語もしくは英語で書いた作品に限る

※英語で書いた作品を応募する場合は、作品の概要を日本語で1〜2ページ程度にまとめて添付すること。概要のページ数は本

文に含まない。

・個人または組織の「応募フォーム」からエントリーしたうえで作品を送付すること。

・入賞作品の著作権は公益財団法人図書館振興財団に帰属

募集期間 9月9日～10月7日必着

賞(予定)「文部科学大臣賞」「観光庁長官賞」「国連生物多様性の10年日本委員会」賞「優秀賞・海外子女教育振興財団賞」ほか

結果発表

2020年1月9日図書館振興財団ホームページにて

応募・問い合わせ先

公益財団法人図書館振興財団

URL: <https://conours.toshokan.or.jp>

### 第65回青少年読書感想文全国コンクール実施要項(公益社団法人全国学校図書館協議会/毎日新聞社)

趣旨

○子どもや若者が本に親しむ機会をつくり、読書の楽しさ、素晴らしさを体験させ、読書の習慣化をはかる。

○より深く読書し、読書の感動を文章に表現することを通して、

豊かな人間性や考える力を育む。さらに、自分の考えを正しい日本語で表現する力を養う。

応募内容

小学校低学年の部(1・2年生) ≪本文800字以内、中学年の部(3・4年生)・高学年の部(5・6年生) ≪本文1200字以内、中学校の部・高等学校の部 ≪本文2000字以内。

対象図書は、主催者が指定した図書から選ぶ「課題読書」と、自由に選ぶ「自由読書」。

応募方法

作品は学校(海外については、原則として日本人学校・補習授業校・私立在外教育施設等)を通じて提出。

※現地校等のみの在籍からの応募は受けつけていない

応募期間(海外分) 9月30日入賞発表

在籍校を通じ、本人宛てに通知。同時に2020年2月『毎日新聞』『毎日小学生新聞』『学校図書館』および『学校図書館速報版』紙上で発表。

賞 内閣総理大臣賞ほかが個人賞として、また在籍校には学校賞が授与される。

表彰式

2020年2月上旬に東京にて問い合わせ先(海外分)

公益社団法人全国学校図書館協議会

URL <http://www.js-la.or.jp>

### 第38回「海とさかな」自由研究・作品コンクール実施概要

(朝日新聞社/朝日学生新聞社)

(巻末の広告欄もご覧ください。)

趣旨

海やさかなに関して、体験を通じて学び、子どもらしい発想で研究や創作に取り組んでもらう。応募資格 小学生

応募内容 海とさかなとわたしたち

○研究部門

観察図(小1～小3対象) 自由研究(小1～小6対象)

○創作部門(小1～小6対象) 絵画、絵本、作文、工作

※1作品1人の応募が原則だが、「自由研究」に限り2人(研究代表者1人と共同研究者1人)までの応募が可能。

応募申請登録期間

5月31日～9月27日

作品応募受付期間

5月31日～10月4日(必着) 賞 「農林水産大臣賞」「文部科学

大臣賞」「海洋研究開発機構理事長賞」「水産研究・教育機構理事

長賞」「日本水産学会会長賞」「朝日新聞社賞」「朝日学生新聞社賞」「日本水産株式会社賞」が

部門ごとに授与されるほか、学校(団体)応募のなかから、学校・団体協力賞が選出される。

なお、応募者全員に「海とさかな博士号認定証」と参加賞が贈られる。

入賞発表

11月中～下旬に、『朝日新聞』『朝日小学生新聞』紙上および、ホームページにて。

問い合わせ先

Mail [guide@umfiosakana.com](mailto:guide@umfiosakana.com)

URL <https://www.umfiosakana.com>

### 作文コンクール・環境教育ポスターコンクールを実施(公益財団法人子ども教育支援財団)

こども教育支援財団は子どもの健全な育成、生きる力を育むことを目的として、作文コンクールや環境教育ポスターコンクール等のさまざまな事業を行っている。詳細はホームページを参照のこと。

URL <http://www.kodomo-zaidan.net>